

12年前から水なし印刷で環境対応

菊全4色／4色両面機と菊全4色機



井上加容子社長

(株)井上総合印刷(栃木県宇都宮市石甕町、井上加容子社長)は平成16年に東レ水なし印刷を導入し、高精細印刷と環境対応印刷を実現している。

井上総合印刷は昭和41年創業。現在、従業員90名で商印・出版印刷、企画・デザイン、製版、印刷、製本加工、デジタル印刷、出庫管理までの一貫体制を構築している。宇都宮CSRまちづくり貢献企業認証、栃

木鼻に特化した電子書籍「月刊誌「しもつけの心」を発行している。東レ水なし印刷は平成16

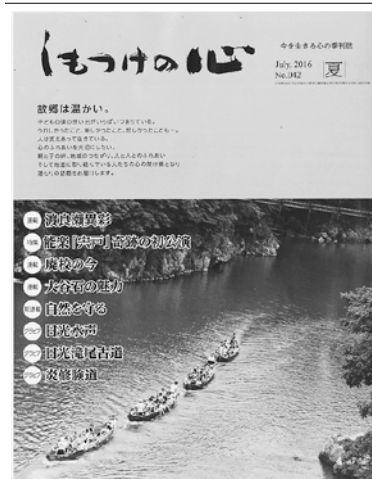
年から開始した。きっかけは高精細カラー印刷への取り組みだった。水なし印刷はインキが水でにじまないため、網点のひとつひとつがくつきりと再現され、高精細な美しい仕上がりの印刷物が得られる。

頁物のカラー印刷、カタログ、パンフレットが顧客から高く評価されていたが、東レ水なし印刷でさらに高精細印刷を目指した。

井上加容子社長は「東レ水なし印刷は上質紙やマト紙、和紙でもデータ通りの網点が用紙上に確実に



水なし印刷の小森菊全4色／4色両面専用機



井上総合印刷発刊の「しもつけの心」

再現でき、肉眼では読めない1級クラスの文字でも拡大してみると見事に再現されている。インキが水でにじまないため、点のひとつひとつがくつきりと再現され、高精細な美しい仕上がりの印刷物が得られる。オペレーターの負担も軽減される」と水なし印刷の高精細印刷の品質を高く評価する。平成20年のジャグラー作品展では出版印刷部門で「熊本の海釣り」が経済産業大臣賞を受賞した。

同社は生産工場環境対応にも力を入れている。主力の平出工場は屋根部分が熱を吸収する塗料、音を吸収する建材を採用。また



水なし印刷の小森菊全4色機

東レ水なし印刷は有害廃液が一切出ない水現像方式で、現像処理後の排水は下水に流すことができ、環境規制遵守の対策にも有効となっている。水質汚濁防止法や新廃掃法などの遵守はもろろんのことPRTTR法、グリーン購入法、ISO14000シリーズにも準拠する。

昨年からT&K TOKAIのパウダレスインキ「キレイナ」を採用し、水なし印刷で多く使われていたパウダーを無くし後加工の工程がスムーズになった。